

## 平成 25 年度 政務活動費 先進都市調査報告書

<b>会派名</b>	市民ネット・むろらん
<b>議員名</b>	水江一弘・児玉智明・佐藤潤・小田中稔・立野浩靖・高橋直美
<b>調査実施年月日</b>	平成25年11月21日(木)
<b>調査先 自治体名等</b>	福岡県 糸島市
<b>調査項目</b>	再生可能エネルギー導入について
<b>調査目的</b>	エネルギーの地産地消と再生可能エネルギー導入計画策定について
<b>報告内容 実施したこと</b>	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口: 99,772 人 (H25.2.28現在) 行政面積: 216,15 km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p style="text-align: center;">糸島市再生可能エネルギー導入計画策定の経緯 目標設定と再生可能エネルギー転換の状況 再生可能エネルギー導入から活用に向けた取り組み</p>
<b>感想(まとめ) 本市へ生かせること等</b>	<p>糸島市は「地球温暖化の防止や環境に負荷をかけないまちづくり」を目指し、「糸島市再生可能エネルギー導入計画」を策定した。この計画の特徴は地域における特性や環境を組み込み、エネルギーの自給自足、地産地消を推進し、活用可能な再生エネルギーの特性を見極め、導入時期を定めていることである。太陽光・小水力・水素利用を短期、バイオマス・太陽熱・風力を中期とし、短期を概ね4年、中期を8年とし具体的な数値目標を掲げている。本市に於いてすでに取り組んでいる風力が中期目標となっている半面、小水力や水素利用が短期計画になるなど大きな違いも垣間見られる。中でも小水力に力を入れており、九州大学と連携し「白糸の滝1・2・3夢プロジェクト」という事業を進めている。この発電は川の落差と水量を利用する二つの方式を組み合わせ、最大15kW の発電が可能となる予定で総事業費が約4,500万円、半分が県からの補助金となっている。またダム of 放流水を活用した小水力発電も事業化が決定している。こちらは26年度稼働で、年間発電量が66万8,000kW となる予定。総事業費は2億1,200万円で県の補助が1億円、残り1億1,200万円が市の負担となる。もう一つ特筆すべきは、環境にやさしい水素エネルギーモデル都市として、家庭用燃料電池を使った世界初の取り組みが実施されていることである。民間企業と県・市が連携し150世帯の「福岡水素タウン」を建設し、各家庭に家庭用燃料電池と太陽光発電、蓄電池システムを設置している。本市では発電可能な川が存在せず、小水力発電は難しいものと思われるが、市内に家庭用燃料電池を開発・販売している企業もあり、水素利用や太陽光利用のエコタウン建設は実現可能性が高いものとする。</p>